

体育科学習指導案

6年3組 36名 指導者 福元浩子

本授業では、以下の検証を行うものである。

- 課題を解決する視点を提示し、その中から子ども自身が視点を選択することは、子どもが主体的に考え判断し、課題を解決するための手立てとして有効であったか。
- 教師が、意図的に「子どもの思考を促し、考えをつなぐ教師の働き掛け」を行うことは、子ども同士の考えをつなぎ深めるための手立てとして有効であったか。

1 単元 表したい感じを工夫して全身で表現しよう 「表現運動」

2 目標

表したい感じに合った動きを見付け、「はじめ—なか—おわり」を付けた簡単なひとまとまりの動きを意識しながら、工夫して表現することができるようにする。

3 単元の評価規準

- 表したい感じをとらえ、即興的な表現や簡単なひとまとまりの動きで表現している。

【運動の技能】

- 運動に進んで取り組み、互いのよさを認め合って練習や発表をしたり、場の安全に気を配ったりしようとしている。

【運動への関心・意欲・態度】

- 課題の解決に向けて、動きや構成、練習や発表の仕方を工夫している。

【運動についての思考・判断】

4 単元について

(1) 単元について

表現運動は、自己の心身を解き放して、リズムやイメージの世界に没入してなりきって踊ることが楽しい運動であり、互いのよさを生かし合って仲間と交流して踊る楽しさや喜びを味わうことができる運動である。

さらに、子どもにとって表現運動は、友だちと踊る、創る、見合うことを通して、心が通じ合うことができる運動である。そして、グループで協力して一つの作品をつくっていくことで、達成感を味わうことができる運動である。しかし、イメージが湧かず、どう動けばいいのかわからなかったり、人前で動くことが恥ずかしかったりするために、楽しさを味わうことができないこともある。そのため、心と体をほぐす準備運動を取り入れたり、いきいきと踊るために実態に合った題材を選んだりする等の工夫をする必要がある。

本単元での運動の経験は、感じを込めて踊ったりみんなで踊ったりする楽しさや喜びを味わい、イメージをとらえた表現を通して仲間と交流する、中学校「ダンス」の学習へと発展していく。

(2) 子どもについて

本学級の子どもたちは、運動好きな子どもが多く、体育科の授業だけでなく、休み時間も外で元気よく遊んでいる。しかし表現運動に関しては、みんなと動きを考えながら踊ることが楽しい、踊ると体も心もすっきりするという子どもがいる一方で、イメージが湧かず、どう動けばいいのかわからなかったり、人前で動くことが恥ずかしかったりするために、表現運動に対して苦手意識をもっている子どもも半数近くいる。

(3) 指導について

本単元において、まず導入の段階では、体ほぐしの運動を取り入れたり、教師や友達のまねをしたりすることで、心と体を十分にほぐし、楽しく表現に親しむことができるようにする。「スキルタイム」では、素早く走る、急に止まる、回る、ねじる、跳ぶ、転がるなどの動きを、即興的な表現の中で組み合わせたり繰り返したりしながら踊ることで、その後の活動に生かすことができるようにする。

展開の段階では、高さや回数、人数といった、動きを工夫する視点を「ダーツ図」に書き込みながら練習することで、表したい感じを伝えるための工夫を、より具体的に考えることができるようにする。また、「フォロータイム」を設定し、互いのグループの表現を繰り返し見合うことで、表したい感じがより伝わるにはどうしたら良いか、アドバイスをすることができるようにする。その際、言葉だけでなく動きも入れて具体的にアドバイスをすることができるようにする。

終末の段階では、発表会を設定し、意欲を持続して練習に取り組むことができるようにする。

5 指導計画（総時数 8 時間）

過程		主な学習活動【評価規準】											
一 次	1 オリエンテーション ・ 表現運動の目標や学習計画を知る。 【態：運動に進んで取り組み、互いのよさを認め合って練習や発表をしたり、場の安全に気を配ったりしようとしている。】							1					
	2 表したい感じが伝わるように、ひとまとまりの動きで表現する。												
二 次	2		3		4		5		6（本時）		7		6 （本時）
	見通す				挑戦する								
	【スキルタイム】準備運動・即興的な表現												
	【めあての確認】一人一人やグループの課題に応じためあてを立てる。												
	一人で作る。		グループで構成を話し合い、ひとまとまりの動きを考える。		グループ練習Ⅰ								
	フォロータイム				フォロータイム（グループ間）		フォロータイム（グループ内）		フォロータイム（グループ間）		フォロータイム（グループ内）		
	友達のよい動きをみんなで踊る。				グループ練習Ⅱ								
	【振り返り】（ 個人 → ペア・グループ → 全体 ）												
	（ねらい1）		いろいろな題材から表したいイメージをとらえ、即興的な表現で踊る。										
	（ねらい2）		表したい感じが伝わるように、動きや構成を工夫してひとまとまりの動きにして表現する。										
【思：課題の解決に向けて、動きや構成の仕方を工夫している。】													
三 次	3 発表会をする。 ・ 表したい感を強調するように、ひとまとまりの動きにして友達と感を込めて通して踊る。 【技：表したい感じが伝わるように、ひとまとまりの動きで感を込めて表現している。】												1

6 本 時（6／8）

(1) 目 標

表したい感じが伝わるように、課題に応じて動きや構成を工夫して表現することができる。

(2) 評価規準

表したい感じが伝わるように、課題に応じて動きや構成を工夫して表現している。

【運動についての思考・判断】

(3) 指導に当たって

「スキルタイム」では、まず、ストレッチをしながら歩いたりスキップをしながら友達と関わったりする準備運動を取り入れることで、心と体をほぐすことができるようにする。次に、素早く走る、急に止まる、回る、ねじる、跳ぶ、転がるなどの動きを、即興的な表現の中で組み合わせて踊ったり繰り返して踊ったりすることで、その後の表現に生かすことができるようにする。

ねらいをもとにした活動では、まず、前時の課題を確認することができるように、表したい感を整理したダーツ図の活用を図るようにする。次に、表したい感を伝える表現ができているか、兄弟グループ毎に見合う「フォロータイム」を設定し、互いにアドバイスを行うようにする。その際、前回のフォロータイムで見合った表現や、グループ毎に整理したダーツ図と比較しながらアドバイスをしたり、タブレット端末を見せたりしながら具体的にアドバイスをしたりするようにする。また、言葉によるアドバイスだけでなく、どのように工夫したらよいか、動きを実際に見せながら、具体的にアドバイスをすることができるようにする。最後に、どのように変えたらより表したい感を伝えることができるかグループ毎に話し合い、自分たちの表現をよりよい表現へと変化することができるようにする。

振り返りでは、自分たちが工夫したことや次時の課題を見える図に整理し、考えを再構築する時間やそれを発表する時間を確保することで、達成感を味わい、次時への活動の意欲をもつことができるようにする。

(4) 本時の展開 □ 重点化するスキル [] 子どもの意識 ○指導の手立て ※評価

過程	時間	主 な 学 習 活 動	指 導 の 手 立 て
つかむ・見通す	8	1 スキルタイム（準備運動を含む。） ・ ゆっくり歩いたり走ったりすると変化があつて楽しいな。 ・ 途中で止まると動きにメリハリがつきそうだ。 ・ 体も心も準備ができたよ。 2 本時のねらいを知り、活動のめあてをもつ。 もっと「〇〇な感じ」が伝わるには、どのような工夫をすればよいだろうか。 ・ 激しい感じが伝わるようにするには、高さを変えたらいいかな。 ・ 動きを繰り返したらいいかな。 ・ 他のグループは、どんな工夫をしているかな。	○ ストレッチや体ほぐし運動を取り入れ、体や心をほぐすことができるようにする。 ○ スキルタイムでは、即興的な表現を取り入れることで、表現を工夫する視点に気付くことができるようにする。 ○ 本時の学習のめあてや活動を確認できるように、体育黒板を活用する。 ○ 表したい感じやイメージをもつことができるように写真やイラストを掲示する。 ○ 前時を振り返り、本時の活動に課題意識をもって取り組むことができるようにする。
挑戦する	30	3 板書を見て、グループの課題を確認し、ねらいをもとにした活動を行う。 ・ 移動の仕方を変えてみたから、そこを見てもらおう。 4 「〇〇な感じ」が伝わる表現になるように、兄弟グループでアドバイスをしよう。 (1) 前時の課題を確かめながら、課題に応じて練習を行う。 (2) フォロータイム 比較する 関連付ける 互いに動きを見て、「〇〇な感じ」が表現できているかアドバイスをを行う。 ・ どうして、右から左に移動したのですか。「〇〇な感じ」を伝えるためには、後ろから前に移動したほうが、迫力が伝わると思います。ちょっと、私が後ろから前に踊ってみます。どうですか。 5 「〇〇な感じ」がより伝わるように、動きや構成を工夫して表現しよう。 (1) フォロータイムで確認した課題の解決の仕方をグループで話し合う。 (2) 話し合った工夫をもとに練習する。 ・ 後ろから前に動いてみよう。 ・ 迫力が伝わったか、タブレット端末を使って自分たちの動きを確認しよう。 ・ もっと「〇〇な感じ」が伝わりやすくするために、指先まで伸ばそう。	○ 協働的な「学び合い」において、工夫した視点を明確にして発表することで、互いに意識して見たり、アドバイスをしたりすることができるようにする。 ○ PM 表やダーツ図を活用することで、比較しながらアドバイスをを行うことができるようにする。 ○ タブレット端末を用いることで、自分のグループの表現と友達のアドバイスを関連付けることができるようにする。 ○ 「つなぐ」名人カードを活用して「学び合い」を行うことで、自分たちのよさに気付いたり、新たな課題を見付けたりすることができるようにする。 ※ 協働的な「学び合い」をとおして、表したい感じを表現することができるように、動きを工夫している。（観察） ○ 高さやリズム、空間などを意識して動きを工夫して表現することができている子どもやグループには称賛をし、価値付けを行う。 ○ 自分の課題が明確になっていない子どもやグループには、タブレット端末を活用したり、板書を参考にするように言葉掛けを行ったりすることで、課題を明確にして活動できるようにする。
振り返る	7	6 整理運動を行う。 ・ 使った部位のストレッチを行う。 7 本時の学習を振り返り、次時への見通しをもつ。 3班のアドバイスの通り、後ろから前に移動してみたら、より激しい感じが伝わるようになりました。次は、より激しい感じが伝わるように、表情も気を付けて練習したいです。 8 協力して安全に片付けをする。	○ 振り返りの視点をもたせることで、本時の成果（できるようになったこと、うまくいったこと、工夫したこと）や課題（次に気を付けて取り組むこと）を発表できるようにする。 ○ 成果を十分に称賛し、課題を次時のめあてとして意識することで、意欲を継続できるようにする。